

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野 科目コード：240003 がん看護学演習Ⅰ Oncology Nursing Ⅰ					
担当教員	牧野智恵、北山幸枝、坂下智珠子、我妻孝則、北本順子、村上真由美				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	薬物療法、症状マネジメント				
学習目的・目標	《学習目的・目標》 学習目的：がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practice のために必要な知識を習得する。 学習目標： 1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。 3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム			講義・討議	牧野
3-4	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント			講義・討議	坂下・牧野
大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析					
① 大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する					
② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働のあり方について造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネジメント					
5-6				講義・討議	我妻・牧野
① 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する					
② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント					
7-8				講義・討議	村上・牧野
① 乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する					
② 専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方についてがん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理					
9-10				討議	北山・牧野
・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて					
10-13	化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について			講義	北本・牧野
14-15	がん化学療法を受ける患者へのマネジメント			討議	牧野
① 学生のこれまでの看護実践の中から、化学療法を受ける患者・家族への困難な事例について討議し、マネジメントについて理解を深める					
教科書					
参考図書等	・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年・西条長廣監修；EBM がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2010年・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護コアカリキュラム、医学書院、2008年				
評価指標	各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。				
関連科目	がん看護学演習Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	① 事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題についてはEvidence based practiceのためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。 ② 自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。				